

【研究の概要】

【研究テーマ】

多様な「観」を愉しむ音楽科学習

【音楽科学習でめざす子どもの姿】

前提として表出する姿	○ 表現領域において、自分の思いや意図をもち、表現したり、仲間の表現に興味をもっている姿 ○ 鑑賞領域において、自分にとっての音楽のよさや面白さなどを感じ、仲間の感じ方に共感する姿
感じる段階	○ 表現領域において、思いや意図をもって音楽を通して表現したことを、仲間とともに音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って試行錯誤し、すり合わせていく姿 ○ 鑑賞領域において、自分と仲間の感じた情景や感情を比較し、違いに気付く姿
調整する段階	○ 表現領域において、思いや意図をもって表現したことを仲間とすり合わせたことで、自分の思いや意図を広げ、よりよいものをつくりあげる姿 ○ 鑑賞領域において、仲間が感じた情景や感情に接することで、一人では気付かなかった感じ方に気付き、自分のもつ情景や感情を広げている姿

【問題意識】

表現領域における課題

子どもは表現領域において、仲間と協働的に表現することの必要性を感じている。一方で、仲間とともに音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って自分たちの表現を試行錯誤することには課題がある。

鑑賞領域における課題

子どもは、鑑賞領域において、一度聴いた音楽について、感じたことを伝え合う姿が見られる一方で、自分が感じたことと仲間が感じたことを比較したり、一人では気付かなかった感じ方に気付き、自分のもつ情景や感情を広げることには課題がある。

【研究の視点②】

子どもが多様な「観」を愉しむための手立て

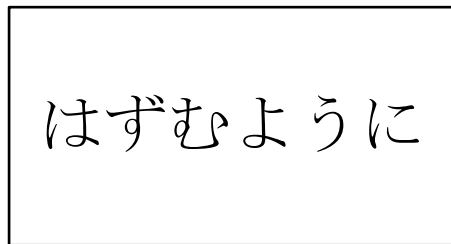
【研究内容】

1 音楽科版パターンカードを手がかりに、多様な「観」を愉しむための手立て

子どもが多様な「観」を愉しむためには、仲間の感じ方や考え方に接し、それを自分の表現や鑑賞に生かす手がかりをもつことが必要である。そこで、音楽科では、表現領域において、思いや意図、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を、表現用パターンカードに蓄積する。表現用パターンカードを蓄積することで、子どもは表現についてコミュニケーションを図る際に、自分や仲間の表現用パターンカードを活用し、自分たちの表現を試行錯誤することができる。鑑賞領域においては、音楽から感じた情景や感情を鑑賞用パターンカードとして蓄積する。仲間の鑑賞用パターンカードに接することで、自分や仲間の感じたことを、視覚的に比較できたり、一人では気付かなかった感じ方に気付くことができる。仲間の音楽科版パターンカードの中で、取り入れたいものを自分の音楽科版パターンカードとして増やしていくことで、表現の思いや意図、技能、音楽から感じた情景や感情を広げることができる。また、このパターンカードは、音楽に苦手意識をもつ子どもも、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能や、感じたことについて、思いや意図をもつことにつながり、有効な手立てになると考える。

音楽科版パターンカードの例

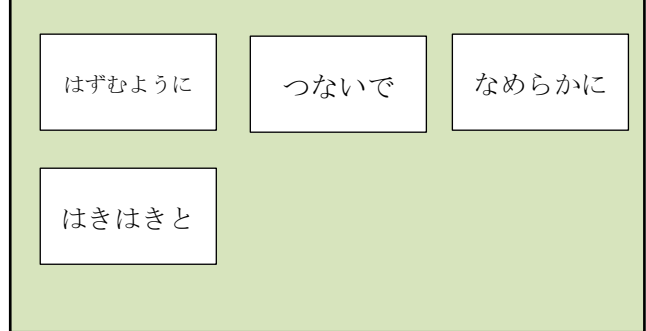
表現用パターンカード例



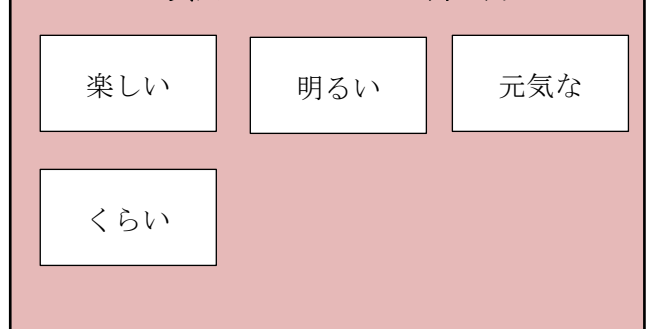
鑑賞用パターンカード例



表現用パターンカード掲示例



鑑賞用パターンカード掲示例



子どもたちが蓄積した音楽科版パターンカードは、全体でも掲示し、共有していく。掲示することで、交流していない仲間の音楽科版パターンカードにも接することができ、思いや意図、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能や、音楽から感じた情景や感情をさらに広げるきっかけにできる。

1 題材名

アンサンブルのみりよく

2 題材の目標及び評価規準

A 表現 (1) ア、イ、ウ (イ) (ウ) B 鑑賞 (1) ア、イ 【共通事項】 (1) ア、イ		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造や歌詞の内容とのかかわり、曲想及びその変化と音楽の構造とのかかわりについて理解し、思いや意図に合った歌い方や声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。	歌詞の内容や曲の特徴を基に、知識や技能を得たり生かしたりしながら、思いや意図が伝わる歌唱表現を工夫することができる。	曲や演奏、歌詞の内容に関心を持ち、仲間と歌ったり聴き合ったりしながら、自分たちの表現を試行錯誤し、すり合わせようとするすることができる。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容とのかかわりについて理解している。 ② 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けた歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能を身に付けている。	① 曲や演奏のよさなどを見いだし曲想及びその変化と音楽の構造とのかかわりについて考えながら曲全体を味わって聴いている。 ② 歌詞の内容や曲の特徴を基に、歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、思いや意図が伝わるように歌唱表現を工夫している。	① 曲や演奏のよさ、歌詞の内容や曲の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、歌唱や鑑賞に主体的に取り組もうとしている。 ② 仲間の感じ方や考え方に接し、自分や仲間の表現用パターンカードを活用しながら、自分たちの表現を試行錯誤し、すり合わせようとしている。

3 題材について

本題材は、曲や演奏の感じ方の違いに気づき、思いや意図に合った音楽表現を工夫することに親しむことをねらいとしている。

本題材において扱う楽曲は2曲ある。「交響曲第5番『運命』第1楽章から」は、指揮者の思いや意図によって感じ方が変わることを味わえる教材である。次に、歌唱教材「ぼくらの日々」は、仲間との日々や心のつながりを歌った楽曲であり、6年生が自分たちの生活と重ねて思いや意図をもちやすい。2曲とも、自分と仲間との感じ方の違いにふれたり、それぞれの思いや意図にふれたりすることができる教材である。

本題材を学習することは、仲間と歌唱表現を試行錯誤することにつながる。互いの思いや意図を生かし、表現をすり合わせ、よりよい音楽表現をつくりあげる上で意義深い。

4 子どもについて

子どもは、歌唱の学習において、歌詞の内容や曲の特徴から感じ取ったことを基に、自分なりの思いや意図をもって歌おうとする姿が見られる。例えば、歌詞の中で大切にしたい言葉を選んだり、曲の盛り上がりや旋律の流れに着目したりしながら、「ここを強く歌いたい」「やさしい感じで歌いたい」などと考えることができる。一方で、仲間と歌ったり聴き合ったりする場面では、自分の感じ方や考え方を伝えることにとどまり、自分と仲間の思いや意図を比較したり、仲間の表現のよさを自分たちの歌唱表現に生かしたりする姿は十分とは言えない。そのため、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、互いの思いや意図を伝えた後に、表現の仕方について、仲間と吟味する活動を継続して行っている。

抽出児について

※ 個人情報保護の観点から、省略します。

5 研究内容

本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

「ぼくらの日々」の歌詞の内容や曲の特徴を基に、自分の思いや意図をもち、仲間の感じ方や考え方に接しながら、思いや意図が伝わるように自分たちの表現を試行錯誤し、すり合わせていく姿。

1：音楽科版パターンカードを手がかりに、自分たちの表現を試行錯誤し、すり合わせるための手立て

本題材では、「ぼくらの日々」の歌詞の内容や曲の特徴を基に、子どもがもった思いや意図、表したい音楽を表現し、子どもが仲間の感じ方や考え方に接しながら、それらを自分たちの表現に生かす手がかりとしていく。また、自分や仲間の表現用パターンカードを活用しながら、思いや意図と歌い方を結び付け、自分たちの表現を試行錯誤することができるようにする。

本時では、「ぼくらの日々」のみんなで共有した大事にしたい部分について、自分や仲間の表現用パターンカードを活用しながら、思いや意図が伝わるように歌ったり聴き合ったりする場を設定する。その際、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、強弱、声の感じ、フレーズ、声の重なりなどを視点に、自分たちの表現を試行錯誤し、すり合わせていくことができるようにする。そうすることで、仲間とすり合わせたことを基に、自分の思いや意図を広げ、よりよいものをつくりあげる姿をめざす。

6 題材指導計画（5時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	意・情・表	態
気 付 く (2)	1 指揮者の異なる演奏を聴き比べ、曲や演奏のよさを見出す。〈1時間〉 ○ 同じ曲での曲想の違い	○ 指揮者の異なる「運命」の演奏を聴き比べることで、同じ曲でも、指揮者の思いや意図によって感じ方が変わること気付けるようにする。		①	①
	2 「ぼくらの日々」の歌詞の内容にふれ、思いや意図をもつ。〈1時間〉 ○ 歌詞にある言葉のもつ意味 ○ 作曲者のメッセージ ○ 大切にしたい歌詞	○ 歌詞全体から、何を伝えたい曲なのかを問うことで、子どもの生活経験とつなげて歌詞を捉えることができるようにする。 ○ 作曲者の思いにふれる活動を設定することで、自分や仲間の感じ方を見つめ直し、歌唱表現に向けた思いや意図を広げることができるようにする。 ○ 大切にしたい歌詞を選ぶ場を設定することで、歌詞の内容と自分の思いを結び付けながら、どのように歌いたいかを考えることができるようにする。			①
			①		①
			発言分析 記述分析		
挑 む (2)	3 歌詞のまとまりや旋律の流れを感じながら、主な旋律を歌う。〈1時間〉 ○ 歌詞のまとまりや主旋律の流れ	○ 大切にしたい歌詞を想起させ、短いまとまりごとに聴いたり歌ったりする活動を設定することで、歌詞のまとまりや旋律の流れを感じながら歌うことができるようにする。		②	
	4 パート練習を通して、声を合わせて歌う。〈1時間〉 ○ パートごとの旋律	○ パートごとの旋律を確認した上で、互いの声を聴き合いながら歌う活動を設定することで、声の重なりを感じ、自分たちの表現を考える手がかりをもつことができるようにする。			
			②	②	②
			行動分析		
本時 1/1	5 学級で大切に歌いたい部分について、思いや意図が伝わる歌い方を工夫する。〈1時間〉 ○ 思いや意図 ○ 表現の工夫 ○ 仲間の表現	○ 表現用パターンカードを基にグループで歌い方を考えたり試したりする場を設定することで、思いや意図と具体的な歌い方を結び付けて考えることができるようにする。 ○ グループで考えた歌い方を全体で試し、交流したことを生かして歌う場を設定することで、仲間の感じ方や歌い方を手がかりに、自分たちの歌唱表現を工夫できるようにする。		②	②
生 か す (1)			発言分析 行動分析 記述分析		

7 本時の目標

歌詞の内容や曲の特徴を基に、仲間と歌ったり聴き合ったりしながら、思いや意図が伝わるように自分たちの歌唱表現を試行錯誤し、すり合わせるができる。

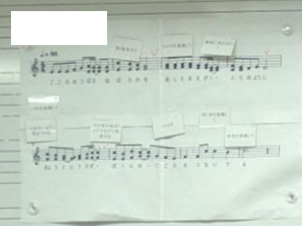
8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1 前時までに決めた大切に歌いたい部分と思いや意図を確認する。 ○ 学級で決めた大切にしたい歌詞 ○ 思いや意図 ○ 本時のめあて 大切にしたい歌詞の思いや意図が伝わるように、歌い方を工夫して歌おう。 2 大切に歌いたい部分を歌い、現在の歌い方を確かめる。 ○ 表現の工夫 ・「今の歌い方だと、ただ歌っている感じがして気持ちが伝わらない。」 ・「もう少し強く歌うといいんじゃないかな。」 3 グループで、歌詞から感じ取った思いや意図と表現用パターンカードを基に、歌い方を考えて試す。（★） ○ グループでの表現の工夫 ・「明るく歌うには、『口角を上げる』カードがいいんじゃないかな。」 ・「『プレス』カードを入れて、歌ってみようよ。どこに入れたらいいかな？」 4 グループで考えた歌い方を全体で試し、歌い方による感じ方の違いを交流する。（★） ○ グループごとの表現の違い ・「プレスを入れることで、ためて歌いやすくなってるね。」 ・「強弱をはっきりさせているところが聴いていてイメージが伝わったな。」 5 交流したことを生かして全員で歌い、表現の変化を振り返る。 ○ 表現の工夫 ○ 成果と課題 ・「最初に歌った時はプレスを意識しなかったけど、最後に歌った時はプレスを意識できたから、言葉が伝わりやすくなったね」 ・「強く歌えばいいと思っていたけど、仲間の意見を取り入れて弱く歌うと、イメージが伝わりやすくなった。」 ・「強弱をもっとつけて歌ったら、どんな感じがするんだろう。」	○ 学級で決めた大切にしたい歌詞や、仲間の感じ方を掲示物で確認することで、自分たちの思いや意図を共有し、表現の工夫に向けた見通しをもつことができるようにする。 ○ 現在の歌い方でさらに工夫できることを共有することで、グループで歌い方を考えたり試したりする活動への見通しをもつことができるようにする。 ○ 表現用パターンカードを用いることで、思いや意図と具体的な歌い方を結び付けて考えることができるようにする。 ○ 考えた歌い方を実際に歌って試す場を設定することで、思いや意図に合っているかを音で確かめることができるようにする。 ○ 「どのように聴こえたか」「どんな思いや意図が伝わったか」を問い返すことで、歌い方と思いや意図とのかかわりを捉えることができるようにする。 ○ 仲間の歌い方から取り入れたい工夫を見付けるよう促すことで、自分たちの表現を見直す手がかりにできるようにする。 ○ 交流で見付けた工夫を意識して歌う場を設定することで、仲間の考えを生かした表現の変化を確かめることができるようにする。 ○ ワークシートに、仲間の考えから取り入れたことや表現の変化を記述させることで、多様な感じ方を生かして自分の思いや意図を広げたことを自覚できるようにする。

9 本時の評価規準

歌詞の内容や曲の特徴を基に、仲間と歌ったり聴き合ったりしながら、思いや意図が伝わるように自分たちの歌唱表現を試行錯誤し、すり合わせている。
（思考・判断・表現②）【発言分析・行動分析・記述分析】

10 当日の板書




大切にしたい歌詞の思いや意図が
伝わるように、歌い方を工夫して歌おう。

6の2が見つけた
「ぼくらの日」の言葉の力

(ほんの小さな ことだけれど やさしいことだ 大切にしたい ことだ)	心の翼ははたかせ 羽をたが馬のように 未来へ駆け出し 希望の星はほく 前向きさ	遠くに行っても いつか帰れども 夢を 心からのまっし ろにしよう
(ぼくらの日は これから続く 足場がふに落ち けずるものと思える 大切なとき)	今日という日が ぼくらの心をなで 今日まで大切に 守ってきたこと 感謝の気持ち	まえにまわって うれしくて 明るい 未来を思い 強い気持ち

① この感じを、歌で伝えるには？





02:00